



## 原子力人材育成研修「メンタリングコース」を開催しました

平成 27 年 6 月 1 日から 12 日にかけて、国際原子力機関（IAEA）、原子力国際協力センター（JICC）及びエネ研の共催で、原子力人材育成研修「メンタリングコース」を開催しました。

この研修は、アジア、アフリカの原子力関係の行政官を対象に、原子力発電に関する日本の技術や人材育成を含めた安全対策に関する最新の知識を習得することを目的として実施するものです。

今回は、10 か国から 14 名の研修生が参加し、原子力分野での経験が豊富な指導者（メンター）からのサポートを受けながら、国内の原子力関連施設を視察し、専門家による講義を受講しました。また、グループに分かれて視察や講義の内容をふまえた討論会を開催し、理解を深めました。

8 日から 11 日にかけては県内を訪れ、地元の原子力理解を深める取組みや原子力防災に関する講義を受講したほか、エネ研での加速器施設の見学やあっとほうむ、オフサイトセンター、関西電力美浜発電所、日本原電敦賀総合研修センターなどの視察を行いました。研修生は、多様な施設が集積する本県の特徴を活かした原子力技術や人材育成の取組み、立地地域と原子力発電との関わり、地元に着した防災計画などについて理解を深めることができました。

さらに、11 日には、杉本副知事を表敬訪問し、副知事からは「今回の研修で学んだことを活かし、母国での原子力発電所の建設、運営を安全に行ってもらいたい」との挨拶がありました。

県内での行程を終えた研修生からは、「あっとほうむでは、エネルギーや原子力発電についてわかりやすく説明してあり、自国での地域住民に対する理解促進の参考としたい」、「美浜発電所では、安全に関するビジョンをしっかりと持って取り組んでいることがわかった」といった意見がありました。



歓迎の挨拶をする旭理事長



あっとほうむ訪問



日本原電敦賀総合研修センター訪問



原子力防災に関する講義



杉本副知事表敬訪問

## 第12回マイクロビーム放射線応答国際ワークショップが開催されました

平成27年5月30日から6月1日にかけて、エネ研において、第12回マイクロビーム放射線応答国際ワークショップが開催されました。

本ワークショップは、先導的なマイクロビーム研究を行っている研究者の学際的な研究成果の発表および幅広い研究交流を目的として、マイクロビーム照射装置を有する世界の各研究機関の持回りで、2年に1度開催されています。今回は、平成20年の放射線医学総合研究所（千葉市）での開催に続く国内で2度目の開催となりました。

開催期間中、照射装置、細胞応答、治療応用等の分野で64件の講演が行われ、エネ研からは、粒子線医療研究グループの前田主査研究員が、X線を照射された細胞の周辺に存在する細胞における細胞死と突然変異の関係について、講演しました。

また、特別講演として、福井県立病院陽子線がん治療センター長の山本和高氏が「福井県立病院での陽子線がん治療」をテーマに、ご講演されました。

世界各地から154名の研究者が参加し、活発な討論が行われました。



特別講演  
陽子線がん治療センター長  
山本和高氏

「マイクロビーム」とは、加速器からのイオンビームを、数 $\mu\text{m}$ 以下の細さに絞ったビームのことをいい、細胞の核にイオンを必要な数だけ狙い撃ちすることができます。粒子線治療の基礎研究となる粒子線生物研究や低線量放射線の影響評価の分野で用いられています。

## エネ研・新メンバー紹介

平成27年5月19日付の人事異動により、新メンバーが加入しました。

5月19日に、エネ研の常務理事・企画支援広報部長に着任しました。これまで37年間、県行政において原発の安全対策を担当してきました。

東日本大震災以降、原子力を取り巻く環境は大きく変化しており、原子力人材の確保や廃炉など、新たな課題への対応も強く求められています。

県の「エネルギー研究開発拠点化計画」を踏まえ、エネ研の第4期中期事業計画（平成27～31年度）が4月からスタートしています。

エネ研としては、『実用化等を目指した研究開発』、『地域のニーズ等を活かした産業育成支援』、『国際的な連携による人材育成』の拠点として、これまでに積み上げてきた技術や知見、成果をさらに目に見えるものにしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひします。



常務理事  
企画支援広報部長

いわなが みきお  
岩永 幹夫



福井県国際原子力人材育成センター次長

やまもと もとひろ  
山本 源宏

国内外のニーズに応える優秀な原子力人材を数多く養成していきたい。



企画支援広報部次長補佐

こんどう まさよし  
近藤 雅義

拠点化計画およびレーザー研究の推進に努めたい。

